

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前，メールアドレス，添付資料を除き，HP等で公表します。また，ユネスコスクールの質の確保の観点から，報告書の内容が一定の基準に満たないもの，報告書が未提出の場合には，ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので，あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立面瀬小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒988-0133
宮城県気仙沼市松崎下赤田 58 番地

E-mail : omo-s14@marbie.ocn.ne.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 188 名 女子 175 名 合計 363 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため，活動内容につ

いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

(1) 本研究で目指したもの

本研究で目指したのは、人とかかわり、自然とふれあう体験活動を通して「ふるさと気仙沼」への、思いや考えを深めながら、自らの思いや考えを表現できる児童の育成である。その手段として「書く活動」に重点を置き、他教科との関連を図りながら、生活科・総合的な学習の時間の指導方法を探り、児童の「思考力・表現力」の育成をめざした。また、東日本大震災（以下、震災）から2年が経過した中で、児童一人一人に復興に向けて努力している方々の姿や身近にあった自然環境を見つめさせ、気仙沼のこれからの姿について考えさせ、表現させることは、ふるさとへの思いや考えを深め、生きる目標や希望をもって将来を生き抜こうとする力につながるものであると考え、持続可能な社会の構築に向けた社会の担い手を育む上でも意義があると考え、本主題に取り組んだ。

(2) 研究の視点

- ① 人とかかわり、自然とふれあいを重視した体験活動の充実
- ② 地域・大学・専門機関との連携と地域人材活用の推進
- ③ 「書く活動」に重点を置いた指導の工夫
- ④ 伝える喜びを味わわせる発信の工夫

(3) 研究で目指した児童像

- ① 自分を取り巻く人々や自然環境に興味・関心をもって進んでかかわりったり、ふれ合ったりしながら、豊かな感性をもった子供。
- ② 自ら課題を見つけ、自ら課題を探究し、自分の思いや考えを深め、表現できる子供。
- ③ 環境保全に向けて生活を見直し、自分にできることを考えて行動できる子供。

(4) 各学年における環境学習プログラム

- 1年 おもせのしき(生活 70h)
- 2年 おいしくそだて わたしの野さい(生活 16h)
おもせ川となかよし(生活 4h)
- 3年 みらいのこそう 水辺のいきものたち(総合 70h)
- 4年 未来のこそう 水辺のかんきょう(総合 70h)
- 5年 水産都市気仙沼「海と共に生きる」(総合 70h)
- 6年 母なる地球、今、私たちにできること
～ みんなで考えよう「環境未来都市」気仙沼 ～ (総合 70h)

(5) 実践例

- ① 「人とかかわり、自然とふれあいを重視した体験活動の充実」「地域・大学・専門機関との連携と地域人材活用の推進」の実践例

ア 1学年「おもせのしき」

本活動では、地域の人々や自然とかかわりながら、四季を通じた栽培活動や遊び、伝統行事を体験したり、地域の様々な公共物にふれたりする活動を通して、地域のよさに気付き、地域への親しみをもつことができるようにした。例えば「おもせのなつ」では、面瀬川に出かけ、水や石を使った川の遊びをしたり、川のいきもの探しをしたりして川に親しんだ。川に初めて入る児童が多く、水に入るのをためらう児童も見られた。しかし、少しずつ川の水に慣れ、進んで水遊びやいきもの探しができるようになった

イ 2学年「おいしくそだて わたしの野さい」

活動では、「野菜名人」の畠山さんとかかわりを大事にしながらサツマイモの植え方をはじめ、野菜の苗の植え方や手入れの仕方を学んだ。児童は、疑問に

思ったことを畠山さんに相談しながら、水やりや除草等の世話を継続して行うことができた。2学期には、サツマイモについては畠山さんの指導をいただきながら収穫した。「野菜名人に感謝する会」では、畠山さんをお招きし、収穫したサツマイモを使って「サツマイモ蒸しパン」を作り皆で食べたり、サツマイモの蔓で作った輪飾りを、手紙と一緒にプレゼントしたりして、感謝を伝えた。

ウ 3学年「みらいのこそう 水辺のいきものたち」

本活動では、宮城教育大学の棟方先生と連携し、面瀬川に生息する生き物を調査したり、校庭内にミニビオトープを作ったりする体験活動を通して、水辺環境を考える学習を行った。また、サクラマスの孵化・観察・放流の体験学習を通して、今の面瀬の水辺環境を維持し、水辺のいきものたちを未来に残すために、自分たちに何ができるかを考え、水辺の生き物を守るために、自分たちができることを実践した。

②「『書く活動』」に重点を置いた指導の工夫の実践例

ア 1, 2学年・・・「生活科カード」を活用し、思いや考えを整理する力を身に付ける。

- 1年：体験したことを整理して記録するために、「みつけたよカード」「なかよくなったよカード」「はっぴょうカード」などを活用した。記録する際には、「目で見たこと」「耳で聞いたこと」などの事実を整理して絵や文に書かせるとともに、それに対する自分の思いや考えを素直に書かせるようにした。
- 2年：グループでまとめを行う前段階として、友達と気付きを共有したり、新たな気付きや思いをもてるようにしたりするため、「見つけたよカード」を持ち寄り、模造紙に貼り整理する活動を取り入れた。

イ 3学年・・・国語との関連を図り「メモを取る」力を高める。

国語科の単元「調べたことをまとめる」「話を聞いてメモをとろう」「こちら、『子ども相談室』」との関連を図った。面瀬川の生き物について「調べたことを整理して文章に書くこと」や「話の中から大事なことを短い言葉でメモに取る。」といった国語で学習した内容を活用できるように、グループ活動のまとめや発表の段階で助言した。話の中から大事な言葉を見つけ、短い言葉でメモする学習を生かし、発表会で他のグループの発表を聞きながら大事なことをメモに取らせる活動を工夫した。

ウ 4学年・・・新聞づくりを活動の中心に据え、伝える目的に応じた表現力を高める。

新聞を作成する際には、国語科の「みんなで新聞を作ろう」や「目的に合わせて書こう」の単元と関連させ、誰に何のために書くのか、目的と形式を考えさせながら書くようにした。取材活動を通して得た情報をもとに、面瀬川をきれいにするために大切なことは何か、自分たちでも取り組めることは何か、自分なりの思いや考えを記事にした。

エ 5学年・・・箇条書きの学習を取材や情報の整理・分析に生かす。

学習過程の中に取材活動の場を設定し、話を聞くときには、聞き取りメモを取る、考えを述べるときには、取材メモを活用して、理由を明確にして話すように指導した。また、情報を整理・分析するときには、集めた情報の中から、必要な情報を箇条書きで取り出したり、見出しを付けたりしてまとめるよう指導した。

オ 6学年・・・「まとめの段階」に国語科で学習したことを活用する。

まとめの段階では、探究したことを分かりやすく文章で伝えられるように、国語科の「ふるさとのよさを文章で伝えよう」と「資料を活用して書こう」の単元との関連を図り、国語科で学習した「目的に応じて書く事柄を集めて、形式を選んでまとめること」や「アンケートや写真資料などを効果的につかっ

て文章を書くこと」の活用を図るよう指導した。児童は、絵や写真、表やグラフなどの資料を効果的に用いて、自分が伝えたいことを根拠を挙げながら相手に分かりやすく伝えることを意識して取り組んだ。

③「伝える喜びを味わわせる発信の工夫」の実践例

ア 4学年「未来のこそう 水辺のかんきょう」

本活動では、宮城教育大学の棟方先生のご指導をいただきながら、面瀬川の水生物調査を行ったり、各家庭の生活排水の実態を探る活動をしたりしながら、川や田んぼ、海などの水辺の環境を守るために、自分たちで取り組めることは何かを考えさせ、できる活動を実践させたい。探究の際は、アンケート調査や取材活動に重点を置き、取材してきたことを新聞にまとめ地域等に発信した。

イ 5学年 水産都市気仙沼「海と共に生きる」

「海と共に生きる」をテーマに気仙沼の何を探り発信するのかを考えさせ、「森と海のつながりを大事に生きてきた漁の姿」や「震災からの復興に向けての漁師の姿」など、気仙沼の海を支える環境や人々の姿を取材した。まとめでは「森と海の環境のつながりを大事に生きようとする漁師の思いや願い」や「復興から立ち上がり海と共に生きる人々の思いや願い」「復興の取り組み」などをフォトブックにまとめ、冊子やネット上の電子ブックとして発信した。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（ ）